

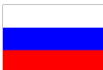
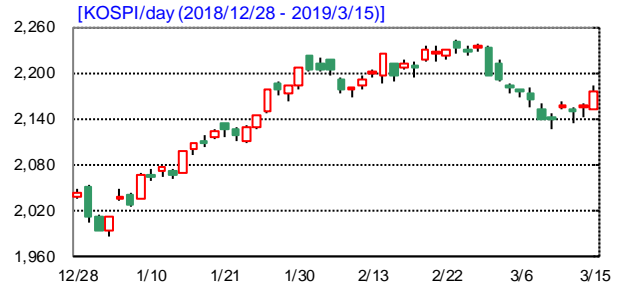


【韓国】 総合指数は週間で1.8%高と3週ぶり反発、今週は海外イベントに注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.8%高と3週間ぶりに反発。堅調な米株相場や米中通商協議の進展期待を背景に買い優勢の展開だった。前週末に終値ベースで1カ月半ぶりの安値を付けた反動で、週明け11日は7営業日ぶりに反発。翌12日も上昇したが、13日は英国のEU離脱を巡る不透明感や世界景気の減速懸念が重しとなり反落。2月の失業率の悪化も嫌気された。一方、週後半の14-15日は再び米株高の流れを受けて上昇した。今週は海外イベントを意識し、様子見ムードが強まるか。米国では19-20日にFOMCが開催される予定。英国の「EU離脱の延期」を巡っては21-22日に開かれるEU首脳会議に注目が集まる。また、米中通商協議関連では要人発言に注意したい。韓国の経済指標では20日に物価統計が発表される。

▼指数チャート

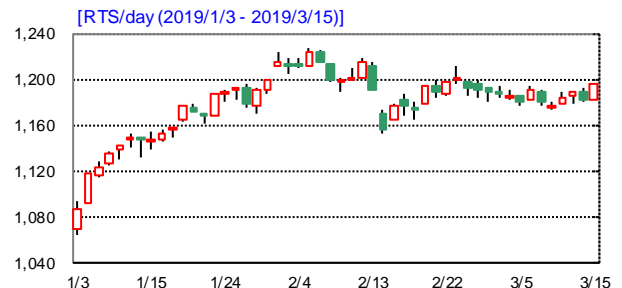


【ロシア】 RTS 指数は1.5%高と3週ぶり反発、今週は原油高で資金流入継続か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は1.5%高と3週間ぶりに反発。原油相場やルーブルの上昇で投資家心理が改善し、指数は15日に約3週間ぶりの高値を付けた。前週まで続落していた指数は強い動きに転じた。世界景気の先行き不安を受けて週初は下落したもの、その後は原油相場の上昇やそれを受けたルーブル高で投資家心理が好転し、資金が流入した。海外投資家による変動利付き政府債の旺盛な需要が確認できた点もルーブル高の一因。貿易摩擦を巡る米中首脳会談の開催が4月以降に延期された影響で売られる場面もあったが、指数は15日に約3週間ぶりの高値を付け、週の取引を終えている。個別銘柄ではVTBバンク(6.2%高)やガスプロム(1.8%高)などが指数を押し上げた。今週は原油高、ルーブル高を背景に資金流入が続くか。

▼指数チャート

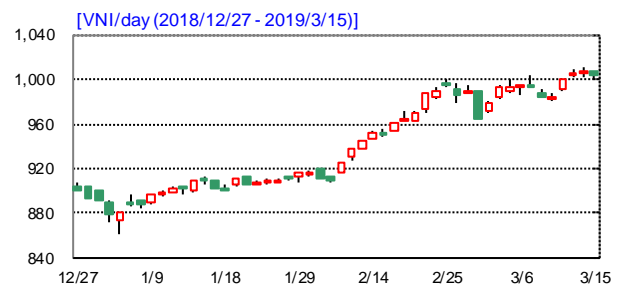


【ベトナム】 ベトナム指数は1.9%高と続伸、今週は高値警戒感で上値は限定的か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.9%高と続伸。英国の「合意なきEU離脱」が当面は回避される見通しとなり、投資家心理が改善した。週初は、前週に発表された中国の貿易統計が期待外れの内容で、米雇用統計も弱い内容となった影響で小幅に下落。ただ、英議会でEU離脱日の延期が可決され、離脱合意を目指してEUと協議を続ける方針が確認されたことで、「合意なき離脱」への警戒感が緩んだ。指数は12日に終値で1000ポイントの大台に乗せ、14日に1008.44ポイントと約5カ月ぶりの高値を更新。15日は利益確定売りに押されたものの下値は限られた。個別銘柄では、金融のベトコムバンク(5.1%高)、不動産のビンホームズ(2.0%高)などが指数を押し上げた。今週は資金流入の継続が期待されるが、高値警戒感で上値は限定的か。

▼指数チャート

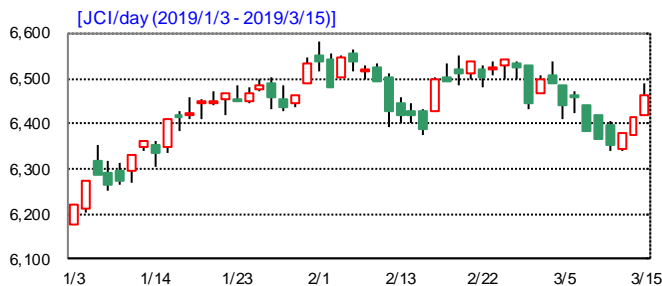


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.2%高、2月の貿易収支が5カ月ぶりに黒字回復

ジャカルタ総合指数は週間で1.2%高と3週ぶりに反発。週後半の上昇が奏功した。前半は買い材料に乏しく、指数は12日まで3営業日続落。ただ、13日に下げ止まると、14日はフィッチ・レーティングスがインドネシアの信用格付けを「BBB」に据え置き、見通しを「安定的」としたことが好感されて終値ベースで5日ぶりに節目の6400ポイントを回復した。15日は2月の貿易収支が輸入額の減少を受けて5カ月ぶりに黒字に転じた効果で3日続伸して引けた。今週は21日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する。米中協議進展への期待感で前週末のNYダウが3日続伸した流れを引き継げば追い風か。

▼指数チャート

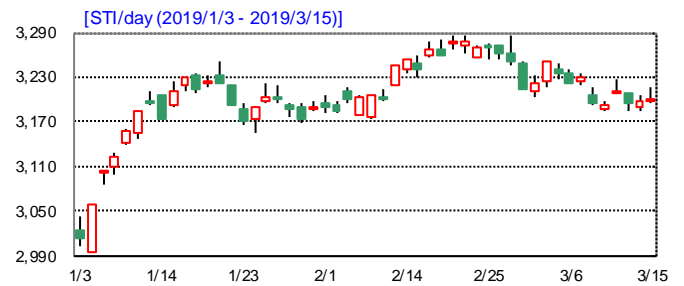


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は 0.1%高、今週は2月の非石油地場輸出が焦点

スเตรツタイムズ指数は週間で0.1%高と3週ぶりに小幅反発。不安定な値動きが続いた1週間だった。11日は世界経済の先行き不安を背景に続落したが、12日は不動産株が買われて3日ぶりに反発。一方、13日は中国の1-2月の鉱工業生産と小売売上高、固定資産投資の発表を翌日に控えた様子見で反落した。14日は指標がほぼ市場の予想通りだったことを受けて買い戻されると、15日は終値ベースで3日ぶりに3200ポイントを回復している。今週は18日に発表された2月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。外部要因では19-20日の米FOMCや21-22日のEU首脳会議の内容が意識されそうだ。

▼指数チャート

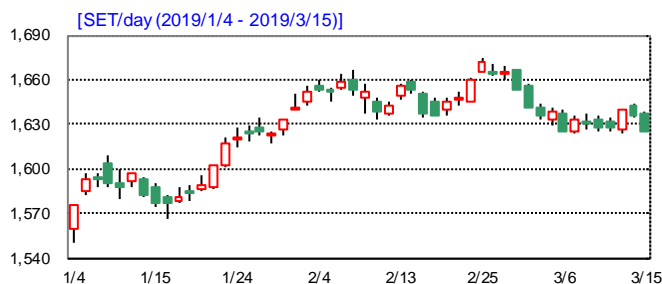


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 0.3%安、今週は2月の貿易統計(通関ベース)に注目

SET指数は週間で0.3%安と3週続落。週末の下落が響いた。週初の11日は前週末に発表された2月の米雇用統計で非農業部門の就業者増加数が17年9月以来の低水準にとどまり、米経済失速に対する懸念が広がった影響で指数は続落。一方、12日に小幅反発すると、13日は原油価格の上昇を受けてエネルギー株が買われて続伸した。ただ、週後半は買い材料に乏しく、15日まで続落している。今週は20日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、21日には2月の貿易統計(通関ベース)が発表される予定。民政復帰に向けた総選挙が24日に迫る中、株式相場でも政治動向が引き続き注目されそうだ。

▼指数チャート

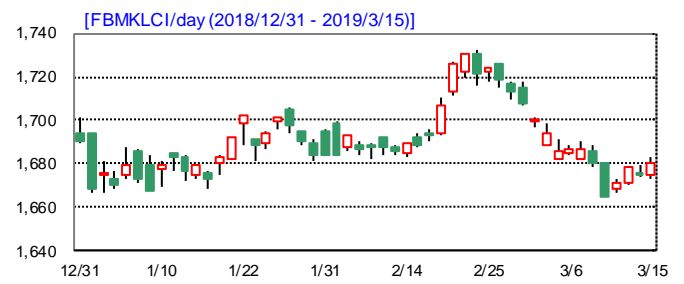


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.04%高、原油価格上昇でエネルギー株に買い

クアラルンプール総合指数は週間で0.04%高とほぼ横ばい。週初の下落分をその後の上昇で補った。11日は国内投資銀行による目標株価が相次いで引き下げられたゴム手袋メーカーのハルタレガとトップ・グループが指数下落を主導。一方、12日は原油価格の上昇を受けてエネルギー株が買われ、3営業日ぶりに反発すると13日も続伸した。14日はマレーシアの1月の鉱工業生産が市場予想から上振れたものの、中国では同指標の前年同期比の増加率が1-2月は17年ぶりの低水準だったことが嫌気されて反落。ただ、15日は国内投資家の買いに支えられ反発している。今週は20日に2月のCPIが発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。